



まぶたに^{ひとえ}一重と^{ふたえ}二重があるのはなぜ

まぶたの^ひ皮^{した}ふの下のようすに^ひ・^み・^つが

まぶたは、^{かお}顔や^め目に^{なに}何かが^まふれる前に、^{すばや}素早く^と閉じて^め目を^{まも}守ったり、^{つよ}強い^{ひざ}日差しから^め目を守ったりするほか、^{ときどき}時々閉じて、^め目が^{たいせつ}かわかないように、^{なみだ}なみだで^{ぬらす}ぬらすなど、^{大切}大切な目を^{まも}守るために、^{じゅうよう}重要な^{はたらき}はたらきをしています。

まぶたを見ると、^{ひとえ}一重まぶたの^{ひと}人と^{ふたえ}二重まぶたの^{ひと}人があり、^{にほんじん}日本人には^{ひとえ}一重まぶたの^{ひと}人が多く、^あアメリカや^あヨーロッパなどでは、^{ふたえ}二重まぶたの^{ひと}人が多いようです。

^{ひとえ}一重の^{ひと}人のまぶたは、^ひ皮^{した}ふの下に^{しぼう}脂肪など^{そしき}やわらかい^{あつ}組織があつて、^{まぶた}まぶたが^{あつ}厚く^ふふくらとして^{います}います。そのため、^{まゆ}まゆ毛と^{まつ}まつ毛の^{あいだ}間にく^{ぼみ}ぼみが^{すく}少なく、^め目を^あ開けたときに^ひ皮^うふに^うたる^みみができ、^{その}その^うたる^みみが^う上^{まぶた}まぶたの^{ふち}ふちを^おおおうため、^{ひとえ}一重まぶたになります。

反対に、^{まぶた}まぶたの^ひ皮^{した}ふの下に^{しぼう}脂肪などが^{すく}少なかったりすると、^{まぶた}まぶたが^ううすく、^{まゆ}まゆ毛と^{まつ}まつ毛の^{あいだ}間に^{ふか}深く^{くぼみ}くぼみができて、^ひ皮^うふに^うたる^みみができないため、^上上^{まぶた}まぶたの^{ふち}ふちを^おおおうことがなく、^{ふたえ}二重まぶたになります。

^{ふたえ}ふたえ一重まぶたの^{ひと}人が、^{びょうき}病気を^{よわ}して弱ったり、^{とし}年をとって^{ふたえ}二重まぶたになるのは、^{まぶた}まぶたの^ひ皮^{した}ふの下、^{しぼう}脂肪などが^{すく}少なくなるためです。

^{ひとえ}一重と^{ふたえ}二重どちらのまぶたがいい？

^{ふたえ}二重まぶたの^{ほう}ほうが^{よい}よいという^{ひと}人もありますが、^{たいせつ}大切な^め目を^{まも}守るといふことから、^{まぶた}まぶたの^ひ皮^{した}ふの下に^{しぼう}脂肪があることは、^め目の^ひ冷えるのを^{ふせ}防ぐことにもなり、^{がいしょう}外傷から^{まも}も守りやすいので、^{ひとえ}一重まぶたの^{ほう}ほうが、^め目の^{ため}には^{よい}よいようです。(監修・保志 宏)

